



# Destination Sustainability Report 2021

持続可能な観光の国際認証制度に基づく釜石市の評価報告書

## はじめに

本報告書は、釜石市観光振興ビジョンにもとづいた取り組みとして、釜石市の観光地としての持続可能性の評価を行なった内容をまとめたものです。

観光を通じた持続可能な社会への貢献に向けた釜石市の取り組みをご理解いただくとともに、さまざまなステークホルダーとコミュニケーションを図り、釜石市に住む地域住民にとって、そして釜石市を訪れる観光客にとって、地域の品質をより良い状態に磨き上げることを目指して発行しています。

---

# 目次

背景-----	4
持続可能な観光の国際基準と認証制度-----	6
持続可能性の評価方法-----	13
持続可能性の評価結果-----	14
SECTION 1：観光地管理（一覧）-----	16
SECTION 2：自然と景観（一覧）-----	18
SECTION 3：環境と気候（一覧）-----	19
SECTION 4：文化と伝統（一覧）-----	21
SECTION 5：社会福祉（一覧）-----	22
SECTION 6：ビジネスとコミュニケーション（一覧）-----	24
（評価項目別アセスメント票）	
SECTION 1：観光地管理-----	25
SECTION 2：自然と景観-----	46
SECTION 3：環境と気候-----	54
SECTION 4：文化と伝統-----	77
SECTION 5：社会福祉-----	83
SECTION 6：ビジネスとコミュニケーション-----	101

## 持続可能な観光とは

観光を通じて地域の持続可能性を高めるためには、永続的に地域が活気のある状態で将来に渡り繁栄し続けることが必要です。そのためには、観光振興によって多くの観光客が訪れ、地域経済が活性化、その経済効果が地域住民の暮らしに反映されている一方で、観光客の急激な増加による好ましくない影響、例えば観光客の混雑による地域住民の日常生活への悪影響、騒音やゴミの増加といった環境面での悪影響などが、一定範囲内に抑えられている必要があります。

このように、観光による地域への影響は多岐に渡りますが、持続可能な観光の実現に向けて注視すべき要素としては「環境」「社会」「経済」の3つを挙げるのが一般的です。

なお、国連世界観光機関（UNWTO）では、持続可能な観光について以下のように定義しています。

持続可能な観光開発の方針とマネジメントの実践は、マスツーリズムやニッチ市場向けの多様な観光をはじめ、あらゆるタイプの観光地で、あらゆる形態の観光に適用することができる。持続可能性の原理は、観光の発展における、環境、経済、社会文化的な側面に関わっており、長期間の持続可能性を保証するためには、これら3つの領域間で適切な均衡がとれていなければならない。

従って、持続可能な観光は：

- 1) 環境資源を最適に利用しなければならない
- 2) ホストコミュニティの社会・文化的真正性を尊重しなければならない
- 3) 存続可能な長期的経済活動を保証しなければならない。

UNWTO発行「持続可能な観光指標に関するガイドブック」より

1)～3)が「環境」「社会」「経済」に対応しており、地域が観光を通じて持続可能であるためには、観光客を多く集めて経済効果を生むだけでも、逆に海や森などの自然資源を保護するだけでも成立せず、3つの要素のバランスこそが重要となっています。

## 旅行者の意識の変化

昨今の観光をめぐる環境の変化として、旅行者における持続可能な観光への意識の高まりが注目されております。

2021年、ブッキング・ドットコムが発表した調査結果（※）によると、世界の旅行者の81%が「今年はサステナブルな宿泊施設に滞在したい」、43%が「旅行に関する選択にさらに配慮することで現地のコミュニティや経済を支えたい」と回答。

日本人においても、82%が「旅行において、サステナビリティが非常に重要だ」、42%が「新型コロナウイルス感染症の影響で、よりサステナブルな旅行を望むようになった」と回答しております。

このような旅行者は、観光地の環境や文化にも関心が高く、いわば「質の高い」旅行者である可能性が高いです。このような旅行者に訪問されることは、地域にとって観光が与えるメリットが高まることが期待されます。

持続可能な観光への意識が高い旅行者に選ばれる目的地となるには、大前提として持続可能な観光地への取り組みをしていること、そして、それに取り組んでいると発信していくことが必要となります。

※ブッキング・ドットコム／「サステイナブル・トラベル・レポート」（2021年6月4日）

## 国が進める「持続可能な観光」の方策

我が国においては、かつての急速な訪日外国人旅行者の増加などを一因として、一部の地域で、地域住民や旅行者の間で、混雑やマナー違反などの課題への関心が高まりました。また、今般の新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、各地域の観光関連産業が大変厳しい時期を迎えており、観光地における危機管理体制の確保・充実の必要性など、まさに文字通り「持続可能」な観光地域づくりの重要性が認識されました。

持続可能な観光の実現に向けて、観光庁においては、2018年に観光庁長官を本部長とする全庁的な「持続可能な観光推進本部」を設置し、今後の方向性や取組について検討を行い、2019年に報告書『持続可能な観光先進国に向けて』としてとりまとめました。そして、各自治体や観光地域づくり法人（DMO）等が多面的な現状把握の結果に基づき、持続可能な観光地マネジメントを行うための支援ツールとして、国際基準に準拠した持続可能な観光指標「日本版持続可能な観光ガイドライン（Japan Sustainable Tourism Standard for Destinations, JSTS-D）」を開発し、2020年6月に公表しました。併せて、モデル地区の選定と支援などを行いながら、持続可能な観光の普及促進が進められております。



日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）

## 釜石市観光振興ビジョンにおける持続可能な観光の推進

釜石市は、旅行者の意識の変化や国の政策の展開に先駆けて、持続可能な観光の考え方を自治体計画に取り入れて推進して参りました。

きっかけは、震災から6年が経過した2017年に、東日本大震災で大きな被害を受けた被災地域の早期復興と新しい地域づくり（観光地域づくり）を具体化する指針をとりまとめた「釜石市観光振興ビジョン」を策定したことに始まります。

「釜石市観光振興ビジョン」では、観光を通じた震災復興の実現を目指し、以下の目標を掲げております。

- ・市民が観光を通じて釜石市に住まう誇りを取り戻す。
- ・人と人とのつながりを生み出し移住者の増加を目指す。
- ・上記を支援する滞在交流型観光システムを創る。

そして、釜石市全体を屋根のない博物館と見立てた釜石オープン・フィールド・ミュージアムというコンセプトを掲げました。これは、釜石市民の観光地域づくりへの参加性を高めて一体感を醸成し、「地域の宝」を再発見する過程を通して、釜石市民の誇りを醸成することを目指す観光地域づくりの考え方です。施策の適正な進捗を評価する為の業績評価指標（KPI）には、経済指標だけでなく、市民意識指標として「誇りを持つ市民の割合」や「人を呼び込もうとする市民の割合」が設定されております。

この「釜石市観光振興ビジョン」において目指す姿を実現する為、方針の一つとして、持続可能な観光(サステナブルツーリズム)の活用を挙げております。その具体的な手法として、国際基準の管理評価指標を導入し、さらに、日本国内で第一号となる持続可能な観光の国際認証の取得に挑戦することとしております。

これにより、「環境」「社会」「経済」のバランスが取れた観光振興を図りながら、同時に、国内外からの釜石市への関心を高めることを目指します。

# 持続可能な観光の国際基準と認証制度

## モニタリングの仕組み – 持続可能性指標 –

持続可能な観光を、観光地において具体的に実現していくためには、行政や観光関連事業者のみならず、地域住民や関連産業、そして地域を訪れる観光客に対しても広く協力を求めていく必要があります。その際、地域の持続可能性の現況や、取組の成果を具体的・客観的なデータで示し、関係者の理解を深める方法が有効とされ、各地でデータモニタリングの仕組みが取り入れられています。

例えば、多くの人は健康に長生きをするために、定期的な健康診断を通して血液検査やレントゲン撮影、血圧測定などを実施し、身体に不具合が出ていないかのチェックを行っています。こうした検査・チェックを観光地単位で行うものが、観光地における持続可能な観光実現のためのモニタリングの仕組みであり、健康診断における診断項目が、「持続可能性指標（Sustainable Tourism Indicator: STI）」と呼ばれます。

持続可能性指標の内容は観光地によって異なり、具体的には、「観光客に愛され続ける観光地になっているか」、「地域住民にとって観光がウェルカムなものになっているか」、「地域へ適正な経済効果が生まれているか」、「観光地の自然・文化資源が高い質のまま守られているか」といったことが様々な指標項目に基づいて計測されることとなります。